（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	きりんのあくび kids ながせ			
○保護者評価実施期間	2024年　4月　1日		～	2025年　3月　３１日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	１０名	（回答者数）	８名
○従業者評価実施期間	2024年　4月　1日		～	2025年　3月　３１日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	９名	（回答者数）	８名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　3月　31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人での勉強会から知識を多く学べる環境にあること。	保護者様への対応力。時間の変更やその都度、保護者様へ受容ができるように各職員意識が出来ている。	準備を怠らないこと。 療育にしても必ず児童の特性を理解し、介入に何が必要なのか意識することを強化していく。
2	プログラムの実施が児童には楽しい取り組みになっているが、職員には評価のできるポイントをいくつか理解して実施が出来ている。そのため、無理強いにはならず、課題の抽出や観察ポイントがはっきりとしている。	環境整備についてなどタスクマップがあることで、新人職員でもわかりやすく視覚化が出来ている。	ヒヤリハットの枚数を増やしていく。 職員1人1人の気づきを増やしていけるように指導を行なっていく。一つのことが大きな事故にならないように努力する。
3	感覚統合の取り組みにより、自社でのプログラムがあること。中でも、感覚刺激に特化した取り組みは大型教具などを通して、自宅や園などでは取り組めないダイナミックな活動に取り組むことができる。	セラピストなど専門知識を持った職員が働きやすい環境を実施している。預かり方の事業所にならないように意識できている。	知識と実践の融合。 失敗はあってもそのままにせず、改善を行えるようにする。そのためにはフィードバックを行える環境の場を作り、働きやすい職場づくりが必須。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との連携。 日々業務や評価に追われ、地域との連携を考える環境設定が行えていない。	児童の発達に着目し、課題の抽出を行うため、児童にとっては楽しくない活動（頑張る活動）になってしまい、行き渋りにならないか心配になってしまう。	まずは児童様に「来て良かった」「やって良かった」と思える課題提供ができるように、職員が意識を行う。
2	保護者様との密な関わりの実施。どうしても療育や発達の話が優先してしまい、事業所の管理業務やマニュアルなどの共有が上手く出来ていない。	預かり支援も行うため、職員との共有の時間が上手く取れていない。	療育の時間と学ぶ時間の両立を法人全体で考えていく。
3	職員の育成。 離職や異動があるため、1人の職員を育てるのに時間がかかってしまう。	地域の方たちの理解の取り方が難しい。また、第三者評価なども連携を難しく感じてしまう。	相談支援員とはいい関係性も持たせてもらっているので、こちらの悩みなどもまた聞いていただく。